

二〇二二年九月二十三日武雄温泉駅から長崎駅まで走る、西九州新幹線が開業しました。私は子供の頃から電車が好きなので、この日武雄温泉駅へ行き、「自分の住む県に二つも新幹線が走るとは」と感動していました。しかし、家に帰って一つの疑問が生まれました。「どうしてこの新幹線は長崎駅と武雄温泉駅を結ぶものなのだろうか」と。「福岡県の博多駅まで繋げれば需要はもっと出てくるのではないだろうか」と疑問に思いました。

調べてみると、西九州新幹線は整備新幹線という種類に分類され、整備新幹線は沿線の県の許可がないと作れない決まりになっていること。そして、国・長崎県・鉄道会社と佐賀県の意見が対立していて、佐賀県は新幹線を通すことに反対していることがわかりました。

国・長崎県・鉄道会社の意見は、新幹線で長崎県と博多駅を直通させて、速達性を高め、利用者や観光客を増やしたいということだそうです。

それに対して、佐賀県側の反対意見としては、財政負担や在来線の利便性低下などがあるそうです。

私はここで、どうすればこの問題を解決することができるのか、考えました。考えていると、ある一つのことに気づきました。「佐賀県と国・長崎県・鉄道会社それぞれが完璧に満足できるような結果はない」ということです。

この新幹線が通ることによって起こる意見の対立はこれだけではありません。佐賀県内の地域同士でも意見の対立は起こります。私は佐賀県鹿島市に住んでいるのですが、新幹線が通ると、「鹿島市にくる特急電車の本数が少なくなり、不便になって嫌だ。」という意見をもっていました。おそらくこれは、鹿島市民のほとんどが思うことだと思います。しかし、新幹線が通る地域、特にもともと電車自体走っていなかった地域の人は「便利になって嬉しい」という意見をもったと思います。ここでも、新幹線が通ってほしいという意見と、新幹線は通ってほしくないという意見の対立があり、この解決策を考えてみると「双方が完璧に満足できる結果はない」という結論にたどり着きました。

このような問題は日常生活でも度々あることだと思います。ある人は「こうしてほしい」と言っても、他のある人は「それは嫌だ」と思うことがあるように、意見の対立というものは必ずあります。この時、双方が満足する結果というものはほとんどありません。たいていの場合、どちらとも何らかの条件を呑んで結果というものは成立しています。このような場合何が大切になるのか、それを私は、「自分が意見を主張する際、ある程度、自分が何か、負担することを前提とする」ということだと思います。

学校生活を送る上で、相手の意見を完全に呑んで、自分の意見を全く言わないような人を見ることがあります。逆に、相手のことを何も考えずに、自分の意見だけを相手に言うような人を見ることがあります。しかし、それでは、問題について真剣に考えていない人だと思われたり、相手にされなくなったりして、結果は良くなならないだろうとそのたびに思います。

自分の意見を大切にし、主張することは重要です。しかし、相手の意見を大切にし、受け入れることもまた重要です。

意見が対立した時、双方が完璧に満足する結果を得られることはほとんどありません。しかし、自分の意見も相手の意見も尊重することができると、お互いに納得のいく結果に近づくと、この西九州新幹線の問題を通して私は思いました。